



【巻頭特集】卒業おめでとう!! みんなの 心に残る 母校の歌

今年、卒業する高校3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。就職や進学で、新しい世界に羽ばたいていく若人の前途をお祈り申し上げます。そして、すでに学び舎を巣立った先輩のみなさん、母校の校歌を覚えていますか?今回、筑西市・下妻市・結城市にある高校の校歌を一挙にご紹介します。ぜひ青春時代にタイムスリップしてみてください。



PHOTO：池田写真事務所（筑西市）
撮影協力：茨城県立下館第一高等学校

茨城県立

下館第一高等学校

西條八十作詞 小松耕輔作曲

- 一、筑波の西に緑野あり
鬼怒の流れに濯はれて
花匂はしく咲くところ
聳えて高しわが母校
- 二、叡智の森は深けれど
こころを協せ究めゆく
若き希望の灯に
想ひは楽し身はつよ
- 三、高き理想を追ふ者の
行くは正義の大路のみ
われらがここに学びたる
教は永久の旗じるし
- 四、使命に燃ゆる盾あけて
われらは進むためみなく
光栄ある文化日本を
世界が仰ぐその日まで



平成25年に創立90周年を迎えた名門校で、県内有数の進学校としても知られています。平成24年度からは学力向上や難関大学を目指すAクラスを開設し、生徒たちは日々努力を重ねています。一方で部活動も盛ん。野球部は昨秋の県大会で、35年ぶりに8強入りを果たしました。また、文芸部は平成22年に短歌甲子園で全国優勝を達成。その他、文化祭・体育祭などの学校行事にも一生懸命取り組んでおり、まさに文武両道の校風です。



さまざまな歴史を刻んできた旧校舎

創立：大正11年(1922年)
卒業生数：25,804人
筑西市下中山590番地
<http://www.shimodate1-h.ed.jp/>

茨城県立

下館第二高等学校

武藤まさ作詞 千本延隆作曲

- 一、真のすがた かくこそあれと
筑波嶺高く 紫匂う
幸ある学びや 幸ある吾等
いざいざ進まん 望の彼方
- 二、勤行のながれ 朝に夕に
大地の 恵をうたう
幸ある学びや 幸ある吾等
いざいざ進まん 望の彼方
- 三、明治の帝 御足とどめし
伊讀野の広野 陽は輝やけり
幸ある学びや 幸ある吾等
いざいざ進まん 望の彼方



明治33年に創立され、113年の歴史を誇る伝統校。女子校としての歴史を歩んできましたが、平成5年度から男女共学化。共学化に伴いカリキュラムや施設の整備が進められ、飛躍のときを迎えています。それに当たり新校舎を建設。みんなの思い出が詰まった旧校舎は取り壊されることになり、昨年には全校生徒が集合して記念撮影が行われました。また、あいさつを通じて地域と触れ合う「あいさつ運動」など、ユニークな活動も行っています。



解体される校舎の前に集合した全校生徒

創立：明治33年(1900年)
卒業生数：24,414人
筑西市岡岸1119番地
<http://www.shimodate2-h.ed.jp/>

茨城県立

下館工業高等学校

村上定夫作詞 藤田幸雄作曲

- 一、紫紺の峰の雲散り
陽光燦然(さんぜん)輝けほ
玉戸の丘(かみ)にたまたまる
若き(わか)のちの雄(ゆう)叫びに
感激(きんげき)のこぼれ
我等(われら)が意気(いき)をしめすかな
- 二、流れは清し鬼怒川や
緑に映える筑波山(つくばやま)
仰ぐ白亜(びやくあ)の学び舎に
共に(とも)つどいし若人の
伸びゆく生命(いのち)のおもひとき
高鳴る胸(むね)はおどるかな
- 三、白雪(しらゆき)かすむ男体の
寒風(さむかぜ)を(ま)んざくも
崇(たか)き理想(りゆうきよう)を胸(むね)にして
思索(しよくさく)の道(みち)のあけくれに
工(こう)たく(む)の業(わざ)を(ま)がきつ
三年(さんねん) (みとせ)のち(ち)り結(むす)ぶかな
- 四、誠(まこと)の心(こころ)たゆみなく
つきぬ学問(がくもん) (まなび)の奥(おく)深く
求むる道(みち)は遠(とほ)くとも
国の力(ちから)のいすえと
努力(どりょく) (つと)す我(われ)らの大志(たいし) (こころ) (こころ)
永久(とこむ)に輝(かが)む光(ひかり)かな



「大志を抱いて努力せよ」を校訓に、明日の日本を担う工業技術者を育成しています。各工業科の授業では、専門知識と技術技能の習得を指導。あわせて部活動も全員入部制で活発に行われています。また、工業高校ならではの資格試験対策も多数あり、国家資格の電気工士やボイラー技士などでは、全国トップレベルの合格率を誇っています。生徒たちはこうした様々な活動の中から、自ら人間性を磨き、充実した学校生活を送っています。



旋盤による金属加工の実習風景

創立：昭和37年(1962年)
卒業生数：11,613人
筑西市玉戸1336番地111
<http://www.shimodate-th.ed.jp/>

茨城県立

明野高等学校

奥沢寛(作詞) 中村貞夫(作曲)

- 一、幾星霜をへだつとも
その名とどむる 石田館
紫匂う 筑波嶺や
明けゆく空と みどり野に
若人集ひ 創る日々
うるはし明野 わが母校
- 二、小波清く陽に映えて
流れたたか 桜川
久遠の光 仰ぎみて
真理(まこと)の道を きはめゆく
豊かに深き そのころ
さやけき明野 わが母校
- 三、松籟さめく 学舎に
朽ちぬ友垣 育みて
青春の意気 いや高く
遅しき身を いはずえに
輝く明日を 開きゆく
はえあれ明野 わが母校



昭和52年に創立。その2年後の昭和54年、野球部は県大会を制し夏の甲子園に出場するという快進撃を見せました。昭和59年にもゼンパツで甲子園に出場、今も盛んに部活動が行われています。授業は少人数であることを生かして、一人一人に対応した指導を実施。質問にも丁寧に答えられます。ユニークな活動が、朝のホームルーム後に行われている「読書タイム」。読みたい本を10分間、集中して読書。生徒も先生も一緒に読んで読書しています。



昭和54年夏の甲子園に出場したときの記念碑

創立: 昭和52年(1977年)
卒業生数: 5,668人
筑西市倉持1176番地1
<http://www.akeno-h.ed.jp/>

茨城県立

下妻第一高等学校

横瀬夜雨(監修) 外池達之助(10回卒)、菊地暁男(10回卒) 作詞

- 一、東に聳(そび)ゆる筑波嶺を 心の友と仰(おぼ)ふ
関八州の唯中に 花散り月は移るへど
為(な)れの園は牢(た)として 千百健児の意気高し
- 二、花爛漫の曙を 月寂寥(せきりよ)の夕暮れに
白星(しらほし)らぐ多賀谷趾(たがや)の 学びの窓にいそしみて
質朴剛毅の校風を 天下に示す雄々(たけな)しさよ
- 三、人あり我が胸問(むね)はば かくと答へん桜花
動かぬ雲と靡(なび)く時 御代(みよ)の姿と昇り行く
朝日の影に色添(いろそ)へて 春永(はるなが)くしへに誇(たか)り
- 四、学べる力身にこめて 山なす浪(なみ)なみを分け行かん
六六州は我が天地 飛躍(とつとつ)をここに試(こ)みん
為(な)れの旗のさす所 光を宇内(うち)にたいにかかやかせ
- 五、昔男子(おのこ)は盾揚(たてか)げて 天下に敵(たてま)す誇(たか)りけり
山の黙姿(もくそ)は今もなほ その世ながらに語(かた)らずや
立てや筑籬(ちくろく)く(健男児 漲(みなぎ)る雄図(おのゝ)示すべし)



明治30年、県内2番目の旧制中学校として創立された116年の歴史と伝統を誇る名門校。多くの生徒が大学進学を目指すと同時に、部活動も盛んに行っています。平成25年度は陸上部、弓道部、山岳部、新聞部、囲碁部が全国大会に出場しました。その他、特にユニークな活動が水海道一高との定期戦。1年交代で全校生徒が相手校に出向き、様々なスポーツ種目で勝負します。本年度は全15種目で勝利し、在校生はもとよりOBも大喜びしました。



水海道一高との定期戦を盛り上げる応援団

創立: 明治30年(1897年)
卒業生数: 26,724人
下妻市下妻乙226-1
<http://www.shimotsuma1-h.ed.jp/>

茨城県立

下妻第一高等学校

折口信夫(作詞) 平井康三郎(作曲)

- 一、明けきたる あけきたる
下妻の若きわれらに 朝は来ぬ
筑波に空の濃紫 たちまちかわる 野の緑
古き文化の静けさに
まつり立ちてはたらかむ
ああ脈(い)はる胸はりて
われらがあくる 若き声
われらがあくる 若き歌
- 二、昼深し ひるふかし
下妻の清き野山に 日はそそぐ
窓あけ放て かがやかに
目路(めぢ)にひるがる 水の面
澄める進(すす)えは わが知識
鬼怒(に)太玉(たぎ) 小貝川
清らに湧(わ)えて美しく
われらあらむ 常(とこ)しえに
われらあらむ 常(とこ)しえに
- 三、夜となりぬ 夜となりぬ
下妻に心ゆたけき 夜はゆるる
思ひはるけく 才(さい)さへすくれ
うるわしかりし 昔人
七たび八たび 思ひ見て
瑞(みづ)の高機織(たかき)れること
しつかに燃ゆる窓の燈に
われらは瞳(ひとみ)らむ永遠(とこ)に
われらは活(い)きる浄(じやう)き知(ち)恵(ゑ)



明治42年、光明寺住職の三浦空成師によつて設立された私立「女子綱文学校」が前身。今年で創立105年目を迎える伝統校です。卒業生数は2万人を越え、各業界で活躍しています。平成5年から男女共学になり、現在では4割以上の男子生徒が在学。部活動が盛んで、弓道部は全国大会で優勝。男子ソフトボール部や卓球部も全国大会に出場しています。野球部は平成16年に夏の甲子園に初出場。平成21年にもゼンパツで甲子園出場を果たしました。



書道部が書き上げた巨大アート作品

創立: 明治42年(1909年)
卒業生数: 22,699人
下妻市下妻乙347-8
<http://www.tsuma2.ed.jp/>

茨城県立

結城第一高等学校

土井晩翠(作詞) 岡野貞一(作曲)

- 一、県は茨城 むかしより
歴史にしるき 結城の地
その名を呼びて 農業の
教えほどこす わが母校
- 二、母なる大地 一切を
育む土に したしみで
勤(こ)れつねに やむなれ
教えは高し また遠し
- 三、見よ 八州の空にたつ
筑波のみねを 溶々と
沃野(わくや)うるをす 鬼怒川を
高く遠きの象徴を
- 四、ああ我が健児 豊かなる
のぞみの春に 勇み立ち
つとめよ日々 向上の
道にすすみて 弛(ゆる)みなく



※写真は旧結城第一高等学校の校舎です。

明治30年、結城蚕業学校として創立され、創立116年を迎えた伝統校。かつては農業科、商業科を持ち、地域の農業・商業振興に寄与してきました。平成5年からは普通科のみとなりましたが、今も「自強不息(じきよふしやまず)」の校訓のもと、生徒一人ひとりの個性を大切に、教育・德育・体育を培う教育が行われています。ちなみに、この校訓は中国の『易経』から取られた言葉で、「自ら努めて励み、怠らないこと」の意です。



校訓「自強不息」が刻まれた記念碑

創立: 明治30年(1897年)
卒業生数: 16,749人
結城市大字結城1076
<http://www.yuki1-h.ed.jp/>

茨城県立

結城第二高等学校

結城フレックススクール校歌(この手で掴もう) 新川和江(作詞) 新川博(作曲) (平成20年制定)

- 一、心の大地をたがやして
わたしの名で呼ぶ木を植えよう
オンリーワン オンリーワン
ほかならぬわたしの行く道 探(たず)ねの
よろこびも つらい涙も
木の根に吸わせ 育てて行こう
筑波(つくば)嶺に日は昇る
光を浴びて わたしたちはここに学ぶ
結城フレックススクール
- 二、誰でもひとつは持っている
自分も気づかぬ才能を
オンリーワン オンリーワン
掘り起こし磨きをかけよう 時は今
それぞれに ちがう未来を
この手で掴もう はげましあおう
夕空に灯をともし
扉(かど)を仰ぎ わたしたちは夢を語る
結城フレックススクール



大正2年に結城町立女子技芸学校として創立され、今年度(平成27年度)に創立100周年を迎えました。平成20年からは三部制(単位制・定時制)の「結城フレックススクール」として再編され、古き良き伝統を継承しながら、新しい学校の姿を創造しています。基調とするスローガンは「人とつながるオンリーワン・みんなが資源・みんなが支援」。人材をまさに資源として考え、それらで支援の輪を広げながら、オンリーワンを輝かせていく校風です。



昨年11月に開催された100周年記念式典

創立: 大正2年(1913年)
卒業生数: 16,815人
結城市結城7355
<http://www.yuki2-h.ed.jp/>

茨城県立

鬼怒商業高等学校

新川和江(作詞) 斉藤徳三郎(作曲)

- 一、鬼怒川に 命(いのち)はつらつ
若(わか)貼(は)は けさも走る
水(みづ)清(き)き 流れのほとり
鍛(た)えよう こころとからだ
われら われら 鬼怒(に)の若(わか)人
- 二、こころざし 高くもてよ
筑波(つくば)嶺(たかね)は きょうも 晴(は)れたり
あたらしき 栄(さか)えもとめて
羽(は)搏(た)こう 世界(よ)の空(そら)に
われら われら 鬼怒(に)の若(わか)人
- 三、学び舎(まなぶや)は みどり常陸野
相(あ)いどう 友(とも)よ仲間(なか)よ
手を繋(た)ぎ こころを繋(た)ぎ
咲(さ)かせよう 黄金(こがね)の花(はな)を
われら われら 鬼怒(に)の若(わか)人



県西地区唯一の商業高校として、就職に有利な資格取得や社会人に必須のビジネスマナーの修得に力を入れています。2年次から商業科情報ビジネス科を選択しますが、どちらも就職はもちろん大学・専門学校進学にも対応しています。充実した検定・資格試験対策のもと、簿記や情報処理を習得した卒業生は即戦力として期待されています。一方でボランティア活動も盛ん。1年生全員が近隣で清掃活動をしたり、鬼怒川河川敷で花植えしたりしています。



全力で野球応援をする生徒たち

創立: 昭和47年(1972年)
卒業生数: 9,622人
結城市小森1513-2
<http://www.kinu-ch.ed.jp/>